

アルジャジーラの戦争報道 One Opinion The Other Opinion

前坂 俊之(静岡県立大学国際関係学部教授)

Toshiyuki/Maesaka

1・戦争報道で世界的に有名に

9.11同時多発テロからイラク戦争までの戦争報道で、世界で最も有名になったのは中東カタール二四時間ニュース衛星放送『アルジャジーラ』である。

「今回のイラク戦争をどのように報道したのか」『アルジャジーラ』とその後、続々生まれた中東衛星メディアを対象に、このほど調査に出かけた。

関西国際空港から約10時間、イラクの2つ隣のペルシャ湾に突き出した人口約60万の小国・カタール。その首都ドーハの土漠の中に巨大なパラボナアンテナが林立する『アルジャジーラ』のこじんまりした本社がある。

『アルジャジーラ』(独立公共財団)は96年に英国BBCのアラビア語放送に従事していたアラブ人ジャーナリストたちがそっくり移籍して、アラブで初のアラブ語24時間ニュースチャンネルとしてスタート。

言論の自由の全くなかった中東で、初のフリーなメディアとしてアラブ各国の政権や王政、社会問題などのタブーに挑戦し、反体制派も招いた討論番組やニュースで歯に衣着せぬ批判を報道して、中東に一大旋風を巻き起こした。

「ウサマ・ビンラディン」の映像の独占放送以来、「中東のCNN」として、世界的なメディアにのし上がり、世界中の視聴者は約3500万人に増えた。

しかし、米政府からはテロリスト寄りの報道として度々批判され、取材拒否されたりやイラク戦争中のバクダッド支局が米軍からの攻撃され、記者2人が死傷するなど激しいバッシングにあっている。

八月末、気温四五度という炎暑の中、本社を訪ねて、アドナン・シャリフ氏（編集責任者）に「アルジャジーラ」のイラク戦争の報道の指針について質した。

## **2・・・社是の「一つの意見があれば、もう一つの意見もある」**

「私たちの編集方針は創立以来『一つの意見があれば、もう一つの意見もある』という  
ことで、戦争もこの方針で取組みました。両方の意見を伝え、公平性や中立性を保とうと  
追求し続けて、イラクの旧政権からもアメリカ政府からも脅されました。

私たちは双方から攻撃されるのです。どこかで紛争があった際には、双方から反対される  
のです。多様な意見を伝えることにこだわり続けたからなんです。

最近出来たテレビはアルジャジーラつぶしのものです」

と、シャリフ氏は強い危機感をにじませた。

中東では「アルジャジーラ」に対抗し、イラク戦争前に、サウジ、ヨルダン、UAE(アラブ  
首長国)など各国が出資し、『アルアラビア TV』(UAE・ドバイ本拠)を設立し、UAE(アラブ  
首長国)も国営放送『アブダビ TV』(アブダビ本拠)のニュース枠を大幅に充実させて、3つ  
どもえの報道合戦の第二ステージに突入している。

『アルアラビア TV』のサラ・ナジム編集長は「戦争報道で質の高いニュース、歴史的な  
背景にも迫る報道を心がけている」。『アブダビ TV』のモハメド・ドーランチャド副  
編集長も「戦争報道では、一方に偏らないさまざまな視点、多様な見方、意見をバラン  
スをとって報道した」という。

## **3・・・「アルジャジーラ」のスター記者・アツルーニ特派員の逮捕**

取材から帰国した9月はじめ、この戦争で最も有名な従軍記者の「ビンラディン」のビ  
デオ映像を報道した「アルジャジーラ」のスター記者のタイシール・アツルーニ特派員  
がスペインで「アルカイダの協力者であった!？」という容疑でスペイン警察によって  
逮捕された、というニュースが飛び込んできた。

米英流の民主主義の根本である客観報道主義を学んで、ジャーナリズムの原則を忠  
実に守った忠実に放送したことで、「アルジャジーラ」が攻撃される羽目になったのは  
何とも皮肉である。

### 前坂俊之の経歴

前坂俊之（まえさか としゆき）

静岡県立大学国際関係学部教授。マスコミ論専攻。1943年生。毎日新聞記者を経て93年から現職。著書に「戦争と新聞(上下)」「メディア学の現在」「海軍大佐の反戦・水野広徳」「ブロードバンドコンテンツビジネス」など多数。